

令和5年

季刊

春季号

Vol.85

亞東



一般社団法人日本台湾親善協会新春互礼会 令和5年2月15日



一般社団法人日本台湾親善協会

Japan-Taiwan Friendship Association

一般社団法人日本台湾親善協会の概要

名称 一般社団法人日本台湾親善協会

(英文名) Japan-Taiwan Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―四 砂防会館別館

二階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに民主主義と自由を信条と

する日本と台湾との相互理解と交流を促進して

日本と台湾との関係強化と発展に寄与する。

事業

① 日本と台湾との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 日本と台湾との文化、芸術の相互の紹介

③ 日本と台湾との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋

④ 我が国に在住する台湾関係者及び在日留学生に対する交流事業

⑤ その他本会の目的を達成するために必要な事業

日本台湾親善協会の変遷

社団法人日本台湾親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年、東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

二〇一二年一月六日、「一般社団法人及び一般財団法人の認定等に関する法律」の施行に伴い一般社団法人としての認可申請が受理され、二〇一三年四月一日より一般社団法人として再スタートいたしました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任され、会長代行の大江康弘参議院議員が就任、二〇一八年五月からは元衆議院副議長の衛藤征士郎先生が会長に就任されました。

日本と台湾との友好交流を発展させ関係の強化を図り、アジアの繁栄と平和に貢献するため二〇一八年九月に名称を「日本台湾親善協会」に変更しました。会員一同、会長のもと、叡智を結集し努力を続けています。

季刊「亜東」令和五年 春季号・目次

一般社団法人日本台湾親善協会・概要・変遷 二頁

目次・協会役員名簿 三頁

新春互礼会 令和五年二月一五日

於・ホテルルポール麹町 四頁

〔令和五年新春互礼会〕開催 一二頁

国会見学に参加して

早稲田大学政治学研究所 潘 亮廷 一三頁

事務局だより 一五頁

令和4年5月23日 現在

役員名簿

| | | | | | | | | | |
|--------|-------|-------|--------|------|-----|-------|------|------|------|
| 名誉会長 | 玉澤徳一郎 | | | | | | | | |
| 会長 | 衛藤征士郎 | | | | | | | | |
| 副会長 | 山本順三 | 張岩田 | 建国善信 | 張 | 碧華 | | | | |
| | 並木正芳 | | | | | | | | |
| 専務理事 | 赤松 則宏 | | | | | | | | |
| 業務執行理事 | 藤山 雅康 | 笹岡 恭亮 | | | | | | | |
| | 榎本 有里 | | | | | | | | |
| 理事 | 23名 | | | | | | | | |
| | 衛藤征士郎 | 張藤山城 | 建国康英 | 張益山 | 碧華茂 | 山本伊野 | 順三雅晴 | 並木明石 | 正芳散人 |
| | 赤松則宏 | 藤岩多 | 雅光忠 | 榎本加藤 | 有里光 | 富田岩本 | 家彰起子 | 岡石富田 | 恭亮散人 |
| | 森田善信 | 岩沢正幸 | 貴哲 | 柴田 | 淑徳 | | | | 茂之 |
| 監事 | 2名 | | 李 八口ル下 | | | 鈴木 慶一 | | | |
| 事務局 | | | 赤松 則宏 | | | 李 孔曉 | | | |

一般社団法人 日本台湾親善協会

一般社団法人日本台湾親善協会

新春互礼会 令和五年二月一五日

【於・ホテル ルポール 麹町】

〈司会〉

皆様お揃いのおようですので、只今より日本台湾親善協会令和五年新春互礼会を開催いたします。開会のご挨拶として日本台湾親善協会会長であります衛藤征士郎会長よりご挨拶をお願いいたします。



〈衛藤 征士郎氏〉

皆様こんばんは。令和五年の新春を飾るにふさわしい日本台湾親善協会新年互礼会に御参集の皆様に心から敬意を表し、感謝御礼を申し上げます。特に謝長廷代表大使閣下には、大変ご多忙の中ご臨席をいただき、まさに錦上、花を添えてくださり、ありがとうございます。またご案内の通り、

このように素晴らしい各種団体の会長の皆様から生花をいただいております。熱く感謝御礼を申し上げます。

私が申し上げるまでもなく、日本と台湾の関係、台湾の安全は日本の安全、台湾の安心は日本の安心、台湾の発展は日本の発展、とにかく日本と台湾、まさに表裏一体であります。私どもは常にそのことを重く受け止め、そして日本台湾親善協会としての責任と使命を果たすために汗をかいておりますが、とりわけ謝長廷大使閣下には、私どもの日本台湾親善協会に対する大所高所からのご指導をいつもくださり、ありがとうございます。また関係の各団体におかれましても、私ども皆様方の団体としっかりと緊密に連携をして、お互いに共生共存共栄ということで、我々頑張っているところであります。

最近特に、台湾のグローバルサウスとしての地位が非常に注目されています。特に台湾のGDPが大変注目されているのです。あまり今外に出ていませんが、ある専門機関により五、六年すると台湾のGDPがロシアを追い抜くのではないかと、という報道もあるのです。そしていわゆるグローバルサウスとしての台湾のステイタス・地位というものが、ものすごく上がっていくだろうというふうに見ております。

このようなこともありまして、私共これからも益々日本台湾両国のこれからの大いなる発展のために、頑張っていきたいなと思っております。コロナでなかなかこういう会も持てませんでした。今日は久しぶりにそれを乗り越えてこのような新年互礼会



衛藤会長、玉澤名誉会長、ご臨場の国会議員の先生方、議員の皆様こんにちは。新年おめでとうございます。また平素より長年、台日友好関係へのご支持、ご支援をいただきまして、ありがとうございます。代表処の各部長全員出席しております。（横浜の処長も出席

〈謝長廷氏〉

が叶いました。本当に我々としては、嬉しく思っております。結びといたしまして、ご臨席の皆様方のご健康とそれからご活躍と関係諸団体の益々の発展を心から祈念をいたしまして、極めて簡単ですが日本台湾親善協会を代表しての挨拶いたします。今日は皆様ありがとうございました、御礼を申し上げます。

〈司会〉
 本日は、代表処より謝長廷大使にご臨席いただきありがとうございます。謝長廷大使よりお言葉をお願いいたします。

していますね。)

去年の今頃、ロシアが軍事演習の名義でウクライナに接近したとき、世界はロシアがあえてウクライナに侵攻するなんてほとんどの人が信じませんでした。その侵攻からもうすぐ一年になります。

先ほど会長のお言葉もあつたように、台湾の経済発展、日本の経済発展、中国の経済発展、韓国の経済発展は、すべて平和のおかげです。過去七十数年間戦争がなかったので、東アジアの国々が飛躍的に発展してきました。つまり平和を迫害することは我々の利益、我らの経済発展を妨害することです。ですが、私は最近いつも申しますが、平和こそ国際社会の確信的利益で、絶対（戦争は）許さないということです。だから日本は今年G7の出席と国連常任理事会の二つの重要な役割を担っています。我々は、日本政府はリーダーシップを発揮して、世界を平和の方向へリードするように期待しています。

最近もちろん「台湾有事は日本有事」という言葉はよく言われていますが、実際は台湾と日本は平和共同体です。日本有事も台湾有事です。先にどちらが有事になるかわかりませんが、私の考えは日本有事が先に起きると思います。

というのは、アメリカ米軍の基地を持っている日本は、もちろん中国共産党解放軍の攻撃の目標ですから、我々はいつも日本と台湾は、国家安全の演習もしなければいけないと要求しています。例えば、少なくともお互いに難民の受け入れ、どの国

の難民もカレンシー（通貨）も受け入れられます。そういう演習をしないと、いざという時に助け合うと言っても言葉だけになってしまう。去年八月の中国共産党の演習の時に何をしたかと言えば、台湾も日本も全然何もしなかったわけです。それは本当に心が痛いです。

ですから今の時期にもっと平和は利益だと発信していきましよう。中国の人民も発信していますが、戦争をしたら彼らの若者も死亡するリスクがあり、台湾の人だけではなく、中国もたくさん死亡者が出ると思います。誰も戦争はしたくないですが、独裁者だけが戦争を望んでいますので、我々はどんどん発信をして、みんなで平和を守ることが、我々の責務なのです。

というのは、ウクライナの戦争で物価が値上がり、光熱費が高くなっています。そのように、世界はグローバルで緊密に連携しています。どこの戦争でも世界は影響されていますから、我々は第三者ではなくみんな当事者なのです。なので平和を守り、平和を発信していくことを期待しています。

改めて長い間、台湾と日本の友好に関して色々お世話になりました。特に衛藤先生にも大変お世話になりました。心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。

〈張淑玲氏〉

衛藤会長、玉澤名誉会長、それから今日ご臨席の多くの国会議員の先生方、華僑団体の会長の皆様、それから、台北代表



処から一六名の同僚が来てくださった。こういう会合はほかにないと思います。突然並木副会長のご指名で僭越ではございますが、本当に久しぶりに大変お世話になった皆様とお会いできて、嬉しく思います。

また日本台湾親善協会の新春互礼会がこのように盛大に開催されますことを心からお祝いを申し上げます。本当にここから拝見しますと、全部東京勤務時代に大変お世話になった方々で、横浜に行つてからも三年半が経ちましてなかなかお会いするチャンスがなかったのですが、でも先程大使からもお話のあったように、本当に台湾有事の話、それから最近TSMCの熊本工場の開設など、台湾にちなんだニュースが毎日のようにながれ、一日たりともテレビに出てこない日がありません。台湾への関心度がこれ以上ない程高まっています。日本友人が台湾に関心を寄せてくださることは有難く思っております。

我が神奈川県内でも、去年一年の間に四つの新しい友好議員

連盟が発足いたしました。小田原市、逗子市、寒川町と三浦市です。ですから、コロナの中でも台湾と日本の関係が進化してきていることを実感しております。今、交流が再開しましたので、ぜひ今日ご臨席の皆様も台湾の方に足を運んでいただきたいと思ひます。

それから謝会長もおっしゃるように、今平和が大事、安全が大事です。台湾にとつては経済安保が一番大事ですので、日本との経済交流を更に進めていただき、またCPTPP（環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定）も是非参加したいと思ひますので、引き続きお力添えを賜りたいと思ひております。

最後になります。今年が卯年ですので、今日ご臨席する皆様もそれから日本台湾親善協会も中華民国台湾と日本の関係も卯年と同じように大きく発展していくことを祈念いたしました。私からのお祝いの挨拶とさせていただきます。

本日はおめでとうございます、ありがとうございます。

〈朱 恭亮氏〉

衛藤先生、玉澤先生、謝大使、張総領事、そして国会議員の皆様、ご来場の皆様、今日はおめでとうございます。私は華僑の二世です。日本で育ちました。そして、皆様に今日は本当に感謝の言葉を言いたくてご挨拶をさせていただきます。

ちょうど五一年前、僕がまだ学生だった頃に日本と台湾の国

交が無くなりなりました。唯一私の記憶では、元の亜東親善協会、華南俱樂部で始まった今は一般社団法人日本台湾親善協会が、私たちの中華民国台湾を応援していただいたのです。先代議員の方、私たちの華僑の先代たち、そして日本の皆様の応援のおかげで、今のこの日本と台湾の良好な関係があるわけです。私は今日そのお礼を言いたくてこの壇上に立ちました。本当にありがとうございます。今後ともこの関係が続くように、私たちが努力いたしますので、どうぞよろしく願ひします。今日はありがとうございます。

〈山本 順三氏〉

皆様こんにちは。会の副会長をさせていただいております。愛媛県選出の参議院議員の山本順三と申します。私は去年に二度、本当に久々に、五、六年ぶりだと思ひますが、でも何年ぶりかわからないくらい久しぶりに台湾に行くことができ、皆様と交流することができました。いろんな意



味で連携プレーを取らなければならないということでありまして、蔡総統をはじめ皆様方も非常に熱心にお話をしていたいただいたことを大変有難く嬉しく思っておりますのであります。

一つだけ皆様にご紹介したいと思いますが、『KANO』という映画がありましたよね。私は愛媛県ですから、実は愛媛の松山商業の監督をしておった方が嘉義農校に行つて、そこで野球の指導をしてその結果甲子園に出て準優勝したという過去の歴史がありました。今度はまた愛媛のグループがミュージカルをやつて、それを台湾に乗り込んで北から南へとあちらこちらでご披露するということがありますので、是非皆様 チャンスがあつたら見ていただきたいし、多分東京公演もあろうかと思えますので、そんなことも含めてご案内をしたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます、挨拶に代えたいと思います。ありがとうございます。

〈玉澤 徳一郎氏〉

ご指名をいただきました、玉澤徳一郎です。今日は謝長廷大使閣下ならびに国会議員の先生方、それからたくさんのご列席の皆様の中で、新春を祝う会が盛大に開会されたことに対して、心からお祝いを申し上げたいと存じます。

私は昨年、中国共産党の二〇回党大会におきまして、習近平主席が台湾を統一することを公約として、三期目のこの任期が今年から始まるわけです。この五年間は、緊張と忍耐の



戦いです。台湾を統一できなければどうなるかというところ、この後の後援会で私は質問しましたが、『習近平が辞任するだけではなく、中国共産党体制が崩壊するだろう』と、こう言われました。私も全く同じ気持ちであります。

ですから、我々は自由と独立を守る。決して中国を恐れてはならない。

方法は色々あります。だからいきなり攻めてくるということはないと思います。色々なその手練手管を通じて政治工作をしてくると思うわけですが、こういうものを全て跳ねのけて、そしてこのアジアと日本と台湾の平和と自由を守つていかなければなりません。

安倍元総理が言われたように、台湾有事は日本有事である、このことを肝に命じまして本年から緊張感を持って、忍耐力を持って、決して屈しないという強い決意を持って、望まなきゃいかんと思います。日本と台湾のさらなる友好を願ひまして挨拶いたします。ご苦労様です。ありがとうございます。

〈宮下 一郎氏〉

改めまして、皆様こんばんは。長野県選出の衆議院議員の宮下一郎と申します。

この会には毎年参加をさせていただいており、皆様にお会いするのを大変楽しみにしております。

コロナもようやく五類に移行するという事で、もうすでに台湾との間の航空便の検疫等はもうフリーになり、日本からも台湾からも人の行き来ができる、一日に何便も飛行機が飛ぶという時代がようやく戻ってきました。まさに日台の交流が再び盛んになる年にしなければいけないという思いであります。



今、日本も人口減少など色々な課題がありますけれども、私もこの前の予算委員会で質問しましたが、やっぱりインバウンド、海外の皆さんとの交流、そして特に地方にも台湾の皆さんをぜひお迎えをしたいなという風に思いますし、日本の地方の皆さんもぜひ台湾に行ってもらいたい、そういう交流がどんどん盛んになることを祈っております。

そのためにも、大使がおっしゃったように平和が何より大事ですので、防衛、安全保障、外交も含めて、しっかりと政治が平和を確保して、そして両国の交流を深めていくということが大事だと思います。

もう一つ、私は今度行われる自民党の党大会の運動方針基礎委員の一人なのですが、そこでも今お話がありましたように外国の国名で唯一運動方針に入っているのは台湾です。自民党は青年局を中心に台湾との交流を深めてきましたが、これをしっかりと今後もしっかりやっていくのだということを明記しました。やはり自民党として、台湾を何よりも大事に思っている国だということとをぜひご理解いただければと思います。

これからもご指導いただきながら、両国の親善のために頑張ります。今日はありがとうございます。

〈片山 さつき氏〉

日台親善友好協会の今般の盛大な開催、心よりおめでとうございます。私は昨年六月に派閥を安倍派に代わりまして、直ちに衛藤征士郎先生ほか皆様のお計らいでこの会に入れていただき、顧問にさせていただきました。参議院議員全国区選出の参議院議員の片山さつきでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

何より私二月の八日、九日に台湾を参議院のきちつとした許可を得て訪問させていただきました。この写真がありますが、



書いてくれたのは産経新聞だけではありませんが、頼清徳副総統とお目にかかり、正式に民進党主席ご就任おめでとうございませすという挨拶と金融など私が所管する分野の日台協力についてお話をすることができました。

立法院では游委員長、

以下皆様に出迎えていただきこのマスクをいただいた

きました。例のあのアストラゼナカのワクチンを安倍総理の時に供給した後にお作りになったそうで、このマスクを見て、私の同僚、国会議員も皆大変感動し、ここまでなさってくださいる国は他にないと、ありがたいと皆おっしゃっておられました。

ほかにも半導体分野だけではなく、日台両国はまさに不転の決意でこの地域の安心安全のために命がけで組んでいかなければならないと、そういう認識があらゆる分野でありましたので、非常にいい時期だったと思います。これもやはり親善友好協会に入れていただいたことによるものと、謝代表ほか林部長ほか、皆様ご関係の方に心より感謝申し上げます、また一生懸命にこの問題のために粉骨砕身働くことをお誓い申し上げます、

ご挨拶とさせていただきます。本日はご盛会おめでとうございます。

— 歓 談 —

〈司会〉

新春互礼会も宴もたけなわでございますが、お時間となりました。

それでは締めのご挨拶ということで当日本台湾親善協会副会長であります、張建国さんよりご挨拶をお願いいたします。

〈張建国氏〉

締めの挨拶ということで、例年ですと私ではなくて張碧華副会長が締めをやるのですが、今日は代理ということでよろしくお願いたします。

本日は、謝長廷大使閣下をはじめ駐日代表処から一六人の幹部の方にご出席をいただきました。また、日台友好親善にご尽力をいただいております、日本の諸先生方、そして在日華僑の皆様方、本日はこの令和五年の日本台湾新善協会の新春互礼会にお集まりをいただきまして、大変にありがとうございます。

先ほどからお話もありましたけれども、私ども日本台湾親善協会は一九七〇年に千葉三郎先生を会長としまして、亜東親善協会としてスタートいたしました。当時は千葉先生だけでなく岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生等の重鎮の方々、そ



してその当時の「中華民国台湾」を支持する華僑の皆様方とともに当時の亜東親善協会に集い、日本と台湾の友好親善のためにこれまで努めて参ったわけでございます。

それから五〇年ほどになるわけですが、この間厳しい時期もございましたけれども、日本と台湾の関係は正式な国交はないとはいえ、自由と民主という同じ価値観を共有する間柄として、これまでの緊密な関係を築き上げていくことができました。本日ご在籍の玉澤名誉会長をはじめ歴代の会長は、ほとんど保守本流と言われる清和会の出身の方でいらっしゃいます。

現会長の衛藤征士郎先生、二〇一八年に会長にご就任なられましたけれど、この衛藤征士郎先生のご指導のもとに亜東親善協会という名称を日本台湾親善協会という名称に改めさせていただきました。何度も繰り返しますが、けれども、自由と民主、そして反共産主義というのが私ども日本台湾親善協会の一貫した理念であります。

近年喜ばしいと思うのは、日本と台湾の関係、最近は特に地方レベルで

の交流というのが以前に比べて大変に多くなっているように思います。私も昨年、宮城県や福島県に伺いまして、地方との交流もやらせていただきましたけれども、こういった地方レベルの民間の交流というのは、大変に大事なことだと思っております。

東京都でも最近では都議会だけでなく、区議会でも日本と台湾の友好を深めるというような動きがあるようでございまして、大変に喜ばしく思っております。

コロナが若干改善してまいりましたので、日本と台湾の往來の関係がこれからどんどん増えると思いますが、今日は旧歴で言うと一月二五日で台湾ではまだお正月です。

台湾では今週末までランタンフェスティバルというのをやっています。今年のこのランタンフェスティバルには、もう間に合わないかもしれませんが、日本の皆様方も是非台湾に足を運んでいただければと思います。

今年の初めにあたりまして、日本と「中華民国台湾」の関係のより一層の発展、そして皆様方のご健勝を祈念して、ご一緒に三三七拍子・三本締めで締めたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。どうぞご唱和よろしく願います。

三本締め

ありがとうございます。

「令和五年 新春互礼会」開催

「新春互礼会」を令和五年二月一日、都内のホテルルポール麹町にて三年ぶりに開催しました。

会場には玉澤徳一郎・名誉会長、当協会の顧問を務める衆参両院の国會議員、役員および会員、台北駐日経済文化代表処（駐日代表処）からは謝長廷代表をはじめ張淑玲・横浜分処長、駐日代表処の各部門の責任者ら、僑胞界からも各団体のリーダーなど多くの方々が出席されました。



会長の衛藤征士郎・衆議院議員は挨拶の中で、台湾と日本は安全・安心・発展いずれにおいても表裏一体の関係にあると強調し、当協会は今後も台湾と日本の友好親善および発展のために責任と使命を果たしていくとの考えを示しました。

駐日代表処の謝長廷代表は、「東アジア経済の飛躍的発展は平和のお陰

であり、平和こそが国際社会の核心的利益だ」と述べられました。ロシアによるウクライナ軍事侵攻についても、世界はグローバル化により緊密に連携しており、地域の戦争によって深刻な影響を受けていると指摘し、平和を守ることの責任と重要性を強調されました。

清水一也・台湾協会理事長による乾杯の音頭の後、玉澤・名誉会長、国會議員をはじめ来賓の方々がそれぞれ登壇し挨拶されました。

張建国・副会長は閉会挨拶で、「自由と民主、反共産主義が我々の一貫した理念だ」と改めて表明しました。台日関係についても近年、台日地方間レベルの交流が以前より多くなっており、これは大変喜ばしいことであり、重要なことでもあると紹介し、今後のさらなる地方交流の発展に期待を寄せました。



国会見学に参加して

早稲田大学政治学研究所 潘 亮廷

二〇二二年一月一七日、日本台湾親善協会のご引率の下、私と約一〇名の東京台湾人留学生は日本の国会を訪問し、現役の衆議院議員及び日本台湾親善協会会長衛藤征士郎先生と会談する機会を得ました。



会談では衛藤先生から日本台湾親善協会の歴史が紹介され、協会の先人たちが「日台交流」においてどのような試練と苦難を経験し、どのような努力をしてきたのかが語られました。一人の台湾人として、普段は国際的な政治の場において、発言する権利を有していないことがよくあります。幸いなことに、私たちには友達として日本があり、親善協会のような組織があります。台湾の国際的地位を高め、支持するためにお力添えいただいております。これは間違いなく、台湾の人々にとって最も友好

的なサポートです。

また、出席した留学生からは衛藤先生に対し、TSMCの日本での工場設立、共同防衛、経済などの質問を行い、それらに関する掘り下げた議論及び分析がなされました。現役の衆議院議員の視点を通じて、私と他の留学生は、これらの問題について、より専門的かつ詳細な様々な視

点を得ることができました。会議の後、私たちは国会議事堂など、議会において有名かつ重要な多くの会議室を実際に訪れました。実際に、テレビのニュースでよく国会の様子を目にし、日本や世界に影響を与える重要な法案や決議がここから生まれると思うと胸が高鳴りました。議事堂の内部は非常に広いですが、幸いなことに日本台湾親善協会の方の周到な案内のおかげで各会議室や部屋の素晴らしい逸話を知ることができました。

この国会訪問の後、私と同様に他の留学生もまた、日本の国会に対する理解が深まったと思います。日本台湾親善協会が台湾の学生にこのような貴重な経験を提供してくださったことに関心から感謝しています。日本と台湾は、自由、民主、人権など多くの価値観を共有しています。歴史的な観点においても、他

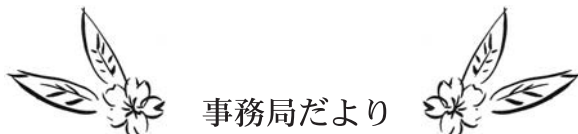




の国際関係とは異なる両国は、より深い相互扶助の関係と絆で結ばれています。これからも衛藤征士郎先生と日本台湾親善協会の先輩たちのように、私たちは日台交流、アジアと世界の平和と安定と繁栄のために最善を尽くしたいと思います。

二〇二三年 一月一八日 筆





◆令和5年度通常総会、懇親会の開催予定

日時：令和5年5月17日(水) 17時00分～19時30分

場所：ルポール麹町 2Fルビー

◆(一社)日本台湾親善協会 時局講演会 開催予定

講師：田崎史郎政治評論家

演題：「岸田政権の行方～日本政治の舞台裏」

日時：令和5年6月15日(木) 18時～19時 (1時間)

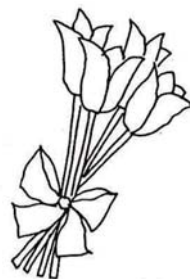
場所：海運クラブ「2階ホール」東京都千代田区平河町2-6-4 海運ビル

対象：(一社)日本台湾親善協会会員・関係者 (200名)

新入会員のご紹介 令和5年1月15日～令和5年4月15日

個人会員 井刈 重男

樋口 節男



季刊 **亜東** (アジアの架け橋) 令和五年 春季号 (No.85)

発行日 : 令和5年4月15日

発行所 : 一般社団法人日本台湾親善協会

発行人 : 衛藤征士郎

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館2階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印刷 : 株式会社サンユー



台湾の翼 チャイナエアラインなら、 うまくいく。

日台の架け橋であるチャイナ エアラインは
日本国内主要15空港から台湾へ最多の直行便を運航
豊富なフライトネットワークから、最適なフライトスケジュールをご提案
充実の法人プログラム
フルサービス航空会社ならお仕事でのご利用も安心
あなたのビジネスパートナーにチャイナ エアラインをお選びください



Home page



Face book



Twitter



Instagram